

友好の原点を歩く旅に参加して

石橋 実

平成17年7月7日の夕刊読売で方正の日本人公墓の記事を読み、中国政府のとった人道的な行為に心をうたれました。そして、少年の頃「満洲国に関東軍」「大陸浪人」「特急亜細亜号」「満蒙開拓団」「大陸の花嫁」など通り一ぺんの知識として頭に入れ、戦後は「舞鶴港の引揚船」「残留孤児調査」「残留婦人」などを、新聞記事やテレビニュースで頭に入れていたにすぎなかった私の頭を、旧満洲国でどんなことがあったのかに向けさせました。

その最初の行動として「方正友好交流の会」に入会させてもらい、会報や会発行の公墓や残留孤児などについての図書を読みました。そして満蒙開拓団の悲劇を知り、是非方正の公墓にお参りしたいと思うようになりました。

今回「友好の原点を歩く旅」の案内をいただき、早速参加を申し込みました。友人の鶴澤弘さんに旅の話をしたところ、同行してくれることになり心強くなりました。また、同行者の中に私が読んだ夕刊読売の記事を書かれたという方がおられたことに何か縁のようなものを感じました。

方正県への約200キロの高速道路の左右は、地平線まで広がるトウモロコシ畑が方正の近くまで続き、あらためて中国の広さを実感しました。

方正県政府への表敬訪問を終えて車で革命烈士陵に参拝し、しばらく走って「中日友好園林」に到着。園内に入り「中日友好園林簡介」や「和平友好」などの記念碑を、「写真で見たこれが実物か」と確かめながら見ました。

公墓の敷地内に入り、写真で何回も見ている「方正地区日本人公墓」の前に立ち、「ああ、やっときたのだ」と感無量になりました。同行の僧侶でいらっしゃる野田尚道さんによる供養のための読経があり、参加者全員が一人ずつ焼香しましたが、私は自分で持っていた線香を上げさせていただきました。「麻山地区日本人公墓」にも上げさせていただきましたが、どちらも火災予防ということで何分もたたぬうちに消さねばならなかったのが心残りでした。お香や線香が燃え終わるまでそのまま上げておける設備があればいいと思いました。

墓参を終え2台の車に分乗して出発。私の乗った1号車はしばらく走って停車、2号車を大分長く待っていました。2号車はその間、「伊漢通開拓団跡」を見学してきたとのことで、1号車は時間がないということで2号車とともに船着場に向かってしまいました。写真で見た開拓団跡の古い家を見たいと思っていたので、残念でした。

船着場では松花江の広さを実感し、対岸を眺めながら敗戦後難民となってさまよった開拓団の人々のことを書いた本の文章を思い浮かべました。

731部隊罪証陳列館、9.18事変博物館、張作霖師府博物館、撫順戦犯管理所、平頂山惨案遺址記念博物館等の参観では、あらためて日本軍のやった悪業、戦争の悲惨さを強く感じさせられました。

今回の旅に参加して、本当によかったと思いました。団長さんはじめ運営してくださった方々、同行の皆さんありがとうございました。

<いしばしみのる、本会会員>